KOUCHOU SENSEI kara HITOKOTO

七転び八起き

校長 山中 泉

The ups and downs of life.

昨年ノーベル医学生理学賞を受賞した山中伸弥京都大学教授の最初の挫折は、中学生の頃、ミシンの部品を作る町工場を経営していた父親から「継がんでええ。おまえは経営に向いてない」と言われたことである。そこで中・高の柔道部で世話になった整形外科医を目指して神戸大学医学部に進学する。次は、念願の研修医となった時に、教官から手術が下手であることを指摘され「じゃまなか」と呼ばれたことである。そこで手先が不器用な自分には、治療法の開発に必要な基礎研究しかないと決心し、研究者に転身するのである。そして、1993年にアメリカに留学。96年に帰国し、マウスのES細胞の研究を続けたが、周囲から「やまちゅう」と呼ばれ、研究を理解してもらえず、うつ状態になった挫折があった。しかし、98年に人のES細胞ができ、人への再生医療の道が開けたことにより、最終的に2007年、人のiPS細胞の開発に成功し、世界を驚かせたのである。

以上の経過を見ると、山中教授には「治らない病気を治したい」という研究者としての強靱な生き方と、「七転び八起き」的発想のプラス思考が常に貫かれているように思う。

そして、ノーベル賞受賞後の会見では、「今日の授賞式は素晴らしかったが、すでに過去のものです」ときっぱり発言し、今後の研究生活への強い決意を述べた。その姿には感動を覚えた。

卒業式を迎えた皆さんは、大きな希望と一抹の不安を抱えていることと思う。「人間万事塞翁が馬」の世の中ではあるが、「七転び八起き」の発想で自分の人生を切り開くことに、生きることの素晴らしさも喜びも感動もある。

巨摩高卒業生諸君　頑張れ!!

見て、聴いて、心に響く「巨摩フェスタ'13」開催

平成25年2月2日（土）あやめホールには、巨摩高校生、保護者の他に、テレビの告知番組を見て知ったという近隣の方や年配のOBなど、多くの方々のご来場をいただきました。文化部の活動を地域の方々に披露するこのイベントは年々知られるようになり、巨摩高生のパフォーマンスを楽しみにしていただいているリピーターの巨摩高ファンの方もいらっしゃいました。
また、ボランティア部の招待した老人介護施設や養護施設の方々にも楽しんでいただきました。

「心に届く演奏をしたい」と思いを語っていた箏曲部は、『風の舞』等を、美しい音でハイレベルな演奏をしていました。

吹奏楽部はゴールデンボンバーの『女々しくて』のダンスパフォーマンスではじけ飛んでいました。白面を付けた樽美酒研二？は校長先生とちゃっかり？ツーショットしていました。

ミニオペレッタ「きつねの和尚さん」を披露した音楽部の熱演に、大きな拍手が送られていました。

軽音同好会は、軽快なドラミングに乗せて「粉雪」「残酷な天使のテーゼ」を演奏しました。

ロビーフロアでは、美術部、写真部、華道部の展示のほかに、茶道部の呈茶、自然科学部の科学体験コーナーも用意されていました。毎年恒例になっている、家庭クラブ委員会のマドレーヌプレゼントも人気でした。

修学旅行 in 沖縄

●修学旅行のしおり」から一部抜粋

私は、沖縄の方言の中で、「なんくるないさ～（なんとかなるさ）」という言葉が好きです。部活や勉強で忙しい日々の私を、おおらかな気持ちにさせてくれます。「くじけずに正しい道を歩むべく努力すれば、いつか良い日が来る」という意味もあるそうです。とても前向きになれる言葉ですね。（中略）また沖縄は、日本で唯一地上戦があった場所。一般市民を多数巻き込んで、悲惨な体験をされた地域でもあります。このような沖縄でたくさんの事を学んできましょう。

実行委員長　石川萌々子

お知らせ

創立90周年記念式典を開催

本年9月21日（土）に創立90周年記念式典を実施し、これまでの輝かしい歴史と現在の繁栄を祝賀する日とします。そして、ここから新たな10年、100周年への歩みをスタートします。

進路情報

大学入試センター試験を164名が受験！

平成25年1月19・20日の両日、センター試験が行われました。今冬一番の寒波、氷点下6.6℃の中での受験でした。巨摩高生は会場の激励コーナーで、校長先生はじめ多くの先生方の激励を受けながら、積み上げてきた成果を発揮しました。国公立大学の2次試験や私大の入試で、見事な成果を残してくれるものと期待しています。

●本校生、英語・数学・国語の最高得点　※（　）内は全国平均　単位：点
英語188（119）・リスニング48（31）・国語170（101）・数学151（107）

特集 SSH スーパー サイエンス ハイスクール

SSH スーパー サイエンス ハイスクール

わくわくサイエンス in 巨摩高

平成24年12月15日（土）、不思議な科学を楽しく体験できる「わくわくサイエンス in 巨摩高」が地域の小中学生を招いて実施されました。
文化創造館や物理、科学の実験室に用意されたいろいろなブースは、どこも科学の世界の楽しさにあふれていました。

科学の楽しさが盛りだくさん!!

体験できた実験
人工イクラ・空気砲・べっこうあめ・カメレオン焼きそば
キックディス・電気パン・DNAを取り出そう
脳をかんさつしてみよう・－197℃の世界・レモン電池
シャボン玉・多面体を作ろう

説明や実験を担当したのはSSH（スーパー サイエンス ハイスクール）の授業を受けている巨摩高生。やって来た小中学生達は「教え方が上手で、とても楽しくすごせた」「お兄ちゃんのキャラの濃い話しぶりが面白かった」「巨摩高への入学の思いが高まった」などと話してくれました。
SSHの運営指導にあたっていただいている大学の先生方からは、「多くの人達に興味を持っていただけたことで、これからの科学の発展に寄与するイベントだ」「改善の必要な点はあるが、とても素晴らしかった。もっと多くの小中学生に体験させたい」などの言葉をいただきました。